

A BRAND NEW CHAPTER @KOCHI
TOSABUSHI

とさぶし



TAKE FREE

No

53



**SUPER
LOCAL**
高知家

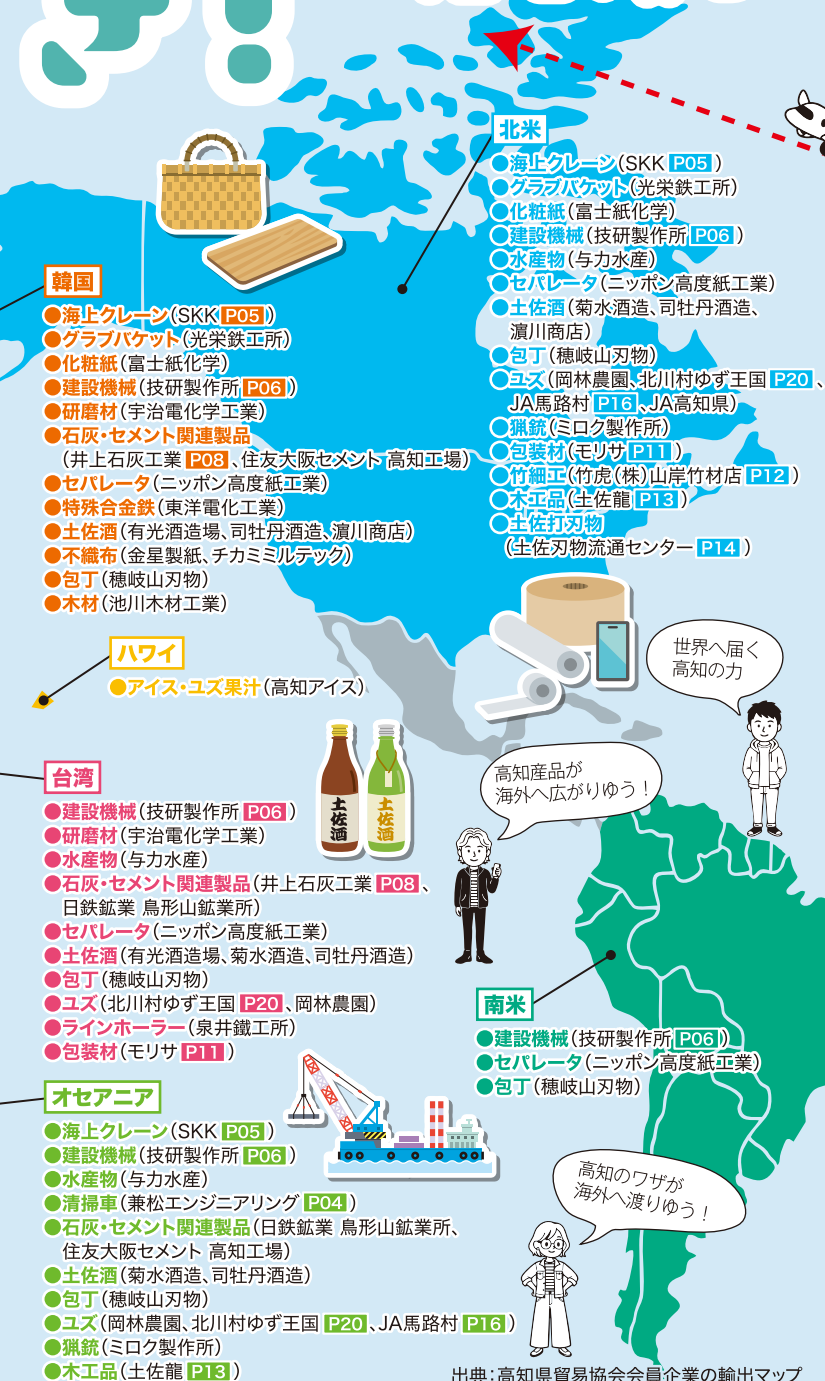


高知発、 世界行ま!

～海を渡る「ワザ」と「モノ」～



オ！ ～海を渡る「ワザ」と「モノ」～



出典：高知県貿易協会会員企業の輸出マップ
※一部加工しています



高知の貿易の歴史をさかのぼると、明治の初期、伝統和紙である「土佐典具帖紙(とさてんぐじょうし)」がアメリカやヨーロッパへ渡った記録に始まる。近年では高知県産のゆずが、欧州やアメリカ、東南アジア、中東などに届けられ、世界中で親しまれていることも広く知られるようになった

が、実は紙、木工品、刃物、石灰製品さらには農業・工事用の大型機械など、小さな品物から大きな工業製品まで、「メイドイン高知」のモノが世界のさまざまな場所で活躍している。

その「つ」をひもとくと、豊かな自然に恵まれた高知の天然資源をはじめ、脈々と受け継がれてきた職人技、使い手の声をすぐさま製造現場へ反映できる密な人間関係が見えてくる。なにより「高知からやつちやるつ」という土佐人らしい開拓精神こ

そが、世界に発信されるものづくりを支えているのだ。高知発のワザやモノが海を越えていく姿は、私たちの暮らしと未来を力強く支えていることを実感させてくれる。

海外ビジネスを支援する「日本貿易振興機構(ジェトロ)」によれば、県内で貿易に取り組む企業は現在約200社もあり、若い世代や小規模事業者も多いという。ここ高知から世界に向けた挑戦が日々続いている。

職人の技術力の高さや開発する力を強みにして、高知から世界に挑戦する企業がたくさんあります！

ジェトロ高知貿易情報センター
よねやま よしあき
米山 由章 所長



海を渡り広がる高知のものづくり
小さな産地が世界に届ける技術と情熱

海外市場で
高まる
高知の存在感



高知発、世界行

欧州

- 化紙紙(富士紙化学)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 土佐酒(有光酒造場、菊水酒造、司牡丹酒造、瀧川商店)
- 包丁(穂岐山刃物)
- ユズ(岡林農園、北川村ゆず王国 P20、JA高知県)
- 猟銃(ミロク製作所)
- 包装材(モリサ P11)
- 竹細工(竹虎(株)山岸竹材店 P12)
- 木製品(土佐龍 P13)
- 土佐打刃物(土佐刃物流通センター P14)



ロシア

- 建設機械(技研製作所 P06)
- 自動車中古部品(リビルト竹内)

UAE

- 海上クレーン(SK K P05)
- 自動車中古部品(リビルト竹内)
- ユズ(高知アイス、JA高知県)

イスラエル

- 包丁(穂岐山刃物)
- ユズ(JA高知県)

サウジアラビア

- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)

アフリカ

- 海上クレーン(SK K P05)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- ラインローラー(泉井鐵工所)



インド

- 建設機械(技研製作所 P06)
- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 農業用機械部品(太陽 P15)

タイ

- アイス・ユズ果汁(高知アイス)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 工作機械(山崎技研)
- 自動車中古部品(リビルト竹内)
- 水産物(与力水産)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- 石灰・セメント関連製品(井上石灰工業 P08)
- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 茶加工品(小谷穀粉)
- ティッシュ(ハヤシ商事 P11)
- 特殊合金鉄(東洋電化工業)
- 土佐酒(司牡丹酒造、瀧川商店)
- 不織布(チカミルテック)
- 包丁(穂岐山刃物)
- 有機ペレット製造機器(垣内)



中国

- 海上クレーン(SK K P05)
- グラブバケット(光栄鉄工所)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 工作機械(山崎技研)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- 石灰・セメント関連製品(井上石灰工業 P03)

- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 茶加工品(小谷穀粉)
- ティッシュ(ハヤシ商事 P11)
- 特殊合金鉄(東洋電化工業)
- 土佐酒(菊水酒造、司牡丹酒造、瀧川商店)
- 不織布(チカミルテック)
- 包丁(穂岐山刃物)
- 木材(池川木材工業、下元住研)



マカオ

- 水産物(与力水産)

ラオス

- 水産物(与力水産)

バングラデシュ

- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)

香港

- アイス(高知アイス)
- 海上クレーン(SK K P05)
- グラブバケット(光栄鉄工所)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 水産物(与力水産)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- 石灰・セメント関連製品(住友大阪セメント高知工場、日鉄鉱業 鳥形山鉱業所)
- 茶加工品(小谷穀粉)
- 土佐酒(有光酒造場、菊水酒造、司牡丹酒造)
- 包丁(穂岐山刃物)
- ユズ(北川村ゆず王国 P20、JA馬路村 P16、JA高知県)



ベトナム

- 橋梁(高知丸高)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 工作機械(山崎技研)
- 水産物(与力水産)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- ティッシュ(ハヤシ商事 P11)
- 電子部材(土佐電子)
- 特殊合金鉄(東洋電化工業)
- 不織布(チカミルテック)
- 木材(池川木材工業)

カンボジア

- 水産物(与力水産)
- 茶加工品(小谷穀粉)

マレーシア

- 茶加工品(小谷穀粉)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 工作機械(山崎技研)
- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 土佐酒(司牡丹酒造、瀧川商店)

シンガポール

- アイス・ユズ果汁(高知アイス)
- 海上クレーン(SK K P05)
- グラブバケット(光栄鉄工所)
- 建設機械(技研製作所 P06)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 水産物(与力水産)
- 石灰・セメント関連製品(住友大阪セメント高知工場)
- 茶加工品(小谷穀粉)
- ティッシュ(ハヤシ商事 P11)
- 土佐酒(菊水酒造、司牡丹酒造、瀧川商店)
- 包丁(穂岐山刃物)
- ユズ(岡林農園、北川村ゆず王国 P20、JA馬路村 P16、JA高知県)

インドネシア

- 海上クレーン(SK K P05)
- 研磨材(宇治電化学工業)
- 工作機械(山崎技研)
- 清掃車(兼松エンジニアリング P04)
- セパレータ(ニッポン高度紙工業)
- 茶加工品(小谷穀粉)
- 特殊合金鉄(東洋電化工業)
- 農業用機械部品(太陽 P15)

県産品が世界で
愛されちゃう!



動する！



する機械たち。
ちが抱く、高知人らしい熱い魂が息づいている。



「納品したら終わり」ではなく、海外で働く人のために、吸引車の安全で確実な使い方も、現地で社員自ら指導。サポートも含めて、世界各地のインフラ整備に貢献している。

「納品したら終わり」ではなく、 海外で働く人のために、吸引車の 安全で確実な使い方も、現地で 社員自ら指導。サポートも含 めて、世界各地のインフラ整備に 貢献している。

主な行き先



ベトナム

・フィリピン
・パキスタン・台湾
・シンガポール
・中国 ほか



高知市

兼松エンジニアリング株式会社 海外課

ながさか じゅん

永坂 潤さん

海外就職、英語教師を経て、令和3年に入社。現在は2ヶ月に1回ほど海外へ行き、外国作業員に吸引車の取扱操作指導などを行う。

吸引車による下水道清掃を通じて世界のインフラを支えています！



世界でひっぱりだこ!? 高知のハイパワー吸引車

こんなふうに使われている！



下水道に溜まった汚泥や石をパワフル吸引！

エチオピアにて側溝に溜まった汚泥を吸い上げて、道路整備をしている様子。汚泥の中には服や靴といったゴミも含まれているが、強い吸引力で全てを吸い込み清掃している。

下水道の汚泥を吸い取る「強力吸引作業車」で国内最大手のシェアを誇る「兼松エンジニアリング」。その原点は、意外にも吸い取るのではなく、「空気を吹き出す」クーラーの開発。「高温や粉じん」に悩む製造現場で働く人に、清浄な冷気を届けたい」という開発者の思いが、技術力の根底にあるという。強力吸引作業車もまた「困り事を解決したい」という熱意の結晶。一台一台が現場ごとの課題に寄り添ってオーダーメイドでつくられており、車が入れない悪路や狭い道でホースを100m以上伸ばしても吸引できる強力な能力を持っている。その性能の高さは海外でも評価され、これまでに257台が世界各地で活躍している。

外国作業員も仰天！
桁外れの吸引力で
街をキレイに

ゴートゥーザワールド!

海上 クレーン

主な行き先



アメリカ

・モロッコ
・オーストラリア
・シンガポール
・インドネシア ほか

高知生まれの 「海の巨人」!?



輸出される海上クレーンのほとんどは、海底の土砂を掘って取り除く「グラブ浚渫しゅんせつ」船。海上に建築物を作る際に重要なくい海底に打ち込む、「くい打ち船」なども輸出している。



世界で躍 高知

高知で生まれ、今や世界の海や大地、街中で躍動
その一台一台には、開発者や製造に携わる人た

県内の製造業者とも力を合わせる
オンリーワンな海上クレーン

およそ30カ国で使用され、世界中の海底で土砂を取り除く作業などで活躍している「SKK」の海上クレーン。その部品点数、なんと約1万点。主要な部分は高知市の本社工場で製造し、大小さまざまなパーツは高知県内にある製造業者とも協力して生産しているという。そこには「高知から世界のオンリーワンを目指す」という。

う、高知愛が込められており、海上クレーンの耐久性は、世界中から認められている。高さ40mを誇り、「海の巨人」とも言えるSKKの海上クレーンは、頑丈さや操作のしやすさはもちろん、手厚いメンテナンスでも高く評価され、世界の海で長期にわたり活躍している。

こんなふうに使われている!



海上建築物の土台作りや堆積した土砂を取り除く
モロッコにて海底に溜まった土砂を取り除き、航路整備をしている様子。
ほかにも空港や貿易港といった海上建築物の土台を作るなど、様々な用途で活躍している。



高知市

株式会社SKK 営業課海外担当

ほりこし だい ち

堀越 大智さん

東京の翻訳会社で勤務したのち、妻の故郷である高知へ移住。令和2年に入社し通訳や海外業務を担当。海外出張は多い年で年間80日!

海外の現場でお寝めの言葉がたくさんいただき、やりがいを感じます!

ゴートゥーザワールド!

杭圧入引抜機

●くいあつにゆうひきぬさき

主な行き先



・アメリカ
・シンガポール
・イギリス
・ドイツ
・タイ ほか

地元で生まれた技術が
世界で役立つっているこ
とを誇らしく思います!

高知市

株式会社技研製作所 グローバル事業推進課

はまだ さ や か

濱田 紗矢香さん

高知県出身。松山大学英語英米文学科を卒業後、令和3年に入社。言語翻訳や海外にある子会社の支援サポートなどに従事している。

高知発の「静かなる怪力」とは!?

音を立てずに杭を打つ
高知で生まれた圧入技術

世界の建設現場で静かに、しかし圧倒的な力を発揮している「技研製作所」の杭圧入引抜機「サイレントパイラー」。その原点は高度経済成長期、高知市で工業を営んでいた創業者の北村精男（きたむらあきお）氏が、「社会問題となっている杭打ち工事の振動や騒音公害をどうにか解決したい」と決意し、世界で初めてとなる圧入工法を独自に生み出したことにさかのぼる。昭和61年にはスウェーデンへ初めて輸出され、これまでに40以上の国と地域で稼働。振動や騒音を最小限に抑え、鉄の杭を地中深くまで打ち込める圧入工法は、土木構造物の安全性を確かにする。革新的な技術として、世界各地のインフラを支え、人々の暮らしと命を守り続けている。

こんなふうに使われている!



世界遺産の運河を守る

世界遺産であるアムステルダム運河で進む、サイレントパイラーを使った護岸の改修工事。騒音と振動の小ささはもちろん、省スペースかつCO₂を排出しない工事ができることも評価された。

堤防や護岸の補強をはじめ、道路や鉄道沿線の工事など、世界中のさまざまな土木工事で活躍している。



たんけん！

すごい

キカゴ

こうちのものづくり！
を見に行かん？

高知県発、世界初の技術と機械を伝えている「RED HILL 1967」。
見て、触れて、ビックリしながら、子どもたちがものづくりの面白さを体験している。

in 技研製作所「RED HILL 1967」

1



まずはサイレントバイラーの仕組みを一通りレクチャーで理解し、そのイメージを頭の中に描いてから見学がスタート！

2



「研究棟」は、鋼矢板を使用した世界で初めての建築構造。宇宙での施工イメージも登場し、子どもたちも思わず釘付けに。

3



圧入原理が分かってきたところで、いざサイレントバイラーの操作を体験！目の前でダイナミックに動く機械に子どもたちが大興奮！

4



「実証展示場」では、サイレントバイラーなど、最新の機械が工事現場で働いている様子を見学できる。リアルスケールで迫力満点！

5



世界杭打機ミュージアムでは、その名の通り、世界各地の杭打機を展示。「機械遺産」にも登録されたサイレントバイラー1号機の様子も。



予約をすれば誰でも見学可能です。大人も子どもも楽しめるのでぜひ来てください！

株式会社技研製作所 総務課

ふじはらすずな

藤原 沙奈さん

令和7年入社。総務の仕事を行いながら、「RED HILL1967」の案内人としても活躍。自社製品の魅力を伝えている。

静かに遂行する工事？
その秘密を体験！

高知県発の「静かに杭を入れる圧入工法」を体験できる施設が、香南市にある「RED HILL 1967」。技研製作所が「圧入工法」という革新的な技術を多くの人に知ってほしい」という思いで開設している。

広々とした敷地には、創造館（世界杭打機ミュージアム）をはじめ、いろいろな体験エリアがあり、例えば圧入原理を体験できるコーナーでは、「引きながら押し込んだら本当に軽くなった！」と見学に訪れた小学生たちも驚いた。さらにサイレントバイラーの操作体験では「ラジコンで簡単に操作できた！」と大興奮。子どもが楽しく学べる場所になっている。世界の工事を支える高知で生まれた技術を覗いてみよう。



1

①南国市稲生(いなぶ)の石灰鉱山跡。石灰原石採掘は平成3年に終止符を打ったが、一帯には現在も高い加工技術で活躍する企業が立ち並ぶ。

石灰石

ゴートゥザワールド!



産出される石灰石の質の高さと、伝統技術を受け継ぐ職人の技。
その両輪が揃う高知だからこそ、高純度の石灰が海外に輸出されている。

灰クオリティ

主な行き先



韓国

- ・中国
- ・台湾
- ・インドネシア
- ・アメリカ

働く人!!

「塩焼き法」による石灰焼成の技術を継承するベテラン職人で、高品質な石灰生成には欠かせない人物。土佐の伝統技能の優れた継承者として高知県の「土佐の匠」にも認定された。

南国市

井上石灰工業株式会社 石灰焼成師

にしがわりよう

西川 良さん



高品質は
確かな技術から。
素材と技術が生む
高知の石灰の力!

上質な石灰の産地として、全国的に名高い高知県。その石灰採掘の歴史は江戸時代にまでさかのぼり、「鳥形山(とりがたま)」や「土佐山鉱山」など、今なお現役で稼働している鉱山もある。「石灰」と聞くと、学校で使われる黒板のチョークやライナーなどを思い浮かべがちだが、実はその用途ははるかに広く、古くは肥料や漆喰、近代では化学用品・食品添加物・医薬品などにも使われており、特に「高品質」とされる石灰は、電化製品や食品・注射液や内服薬など、人々の暮らしに欠かせない製品の原料として活躍している。

さらに高知県は、石灰の産出量のみならず、高い技術力を誇る石灰加工業者も多いことで知られる。南国市の「井上石灰工業」では、なんと地域で250年以上も前から

来年は国民文化祭なので、高知の文化について特集して欲しいです。(高知県・60代) はみだしコラム

世界を支える 高知の石!



日本屈指の埋蔵量と質を誇る 高知の石灰石鉱山

高知を代表する石灰石鉱山として知られるのが、仁淀川町にそびえる「鳥形山」。圧倒的な埋蔵量と、世界的にも評価される石灰の質の高さでその名を馳せる。

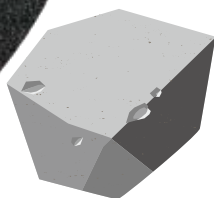
鳥形山は良質な石灰岩を含む「秩父古生層」に属し、埋蔵量は約5～10億トンと推定され、日本でも類を見ない規模。昭和46年の開発開始以来、年間約1400万トンの採掘が続けられ、当時標高1459mだった山は、半世紀で約200m低くなったという。真っ白に切り立つ採掘面は、「鳥形山森林植物公園」の展望台から望むことができ、その姿はこの地の産業の営みを静かに語っている。豊富な資源は、今後100年は採掘が続くと見込まれている。



②鉱山から運ばれてきた石灰石を土中炉で焼成。高温で熱せられることで灰色だった石灰石が真っ白に変化し、ここから加工が行われる。③焼成が終わった石灰は、生石灰となり、品質によって選別。用途に合わせて世界の市場へと運ばれていく。

ワザで魅せる!

高知の



土中炉での焼成は約2日間かかるため、熟練の職人が常に窯のそばに付き、窯の温度や石灰の状態を目と肌で確かめながら調整していく。

伝わる、「土中炉(どちゅうろ※1)」を用いた「塩焼き法」による石灰焼成を今も続け、おり、高純度・高白色度・多孔質・大粒結晶な「生石灰(せいせっかい※2)」を製造している。この「塩焼き法」は、温度管理が非常に難しく、現在これを行う事業者は県内でも数少ないが、井上石灰工業では専門職人が製造を徹底管理することで、高い品質を維持。国内はもちろん、アジア諸国へも輸出され、医薬品・食品分野を中心に高い評価を獲得している。

(※1) 地中に縦穴を掘り、レンガなどで築いた石灰焼成用の特殊な窯
(※2) 石灰石を焼いてできる白い粉末

意外と知らない!?

そのモノ、 グローバル!

紙づくりの伝統技術を生かした製品が、日常の中に数多く溶け込んでいる。
土佐和紙をルーツにした製品を世界に発信する企業が集まる土佐市を訪ねた。

高知の紙製品って
すごいがやね～



シートマスク

シートマスクが今ほど知られていなかった約25年前から、多くの企業のOEM(※)を手がけてきた、土佐市の「三昭紙業」。マスクの原料となる「不織布」を自社で製造できる国内でも数少ないメーカーだが、さらに土佐和紙の紙漉き技術を応用することで、シートを難度の高い三層構造に。美容液をたっぷりと抱え込む「液持ちの良さ」を実現している。地元を受け継がれた技と高い技術力が詰まったシートマスクは、国内外で高い評価を集めている。

土佐和紙のワザがマスクに!

さんしょう
●三昭紙業株式会社 土佐市

シートマスクが今ほど知られていなかった約25年前から、多くの企業のOEM(※)を手がけてきた、土佐市の「三昭紙業」。マスクの原料となる「不織布」を自社で製造できる国内でも数少ないメーカーだが、さらに土佐和紙の紙漉き技術を応用することで、シートを難度の高い三層構造に。美容液をたっぷりと抱え込む「液持ちの良さ」を実現している。地元を受け継がれた技と高い技術力が詰まったシートマスクは、国内外で高い評価を集めている。

(※) 他社に製造を依頼し、自社ブランドとして販売する仕組みや製品のこと。

シートマスクの需要はますます伸びています。私たちの独自技術で貢献していきたいです。



しおた たつや
塩田 竜也さん

受け継がれる

仁淀川の紙づくり

世界の日常に広がる

古くから紙の産地として発展してきた仁淀川流域。その中で今回訪ねたのは、海外に向けた製品も手がける土佐市の企業たち。紙づくりに欠かせない清らかな「伏流水」と、長年培われてきた伝統技術を土台に、今も製紙業者たちは新しいものづくりに挑んでいる。職人の知恵や地域の生活文化を取り入れ、使う人の日常に寄り添うことが特徴で、だからこそ、地域や国境を越えて世界中で愛用されている製品も多い。土佐の紙づくりは、今も力強く未来へ受け継がれている。

風情ある、和紙のおもてなし

●ハヤシ商事株式会社 土佐市

「大手にはできないものづくり」を掲げ、多彩な紙製品を手がけてきた「ハヤシ商事」。中でも土佐和紙の伝統技法による「すかし模様」入りのトイレットペーパーは、昭和45年の大阪万博で好評を得て商品化されたロングセラー。国内では百貨店や料亭、海外では家庭用として愛好家に親しまれている。印刷では出せない独特の風情が魅力で、「刺さる人には刺さるんです」と坂本社長。長年使い続ける熱心なファンも多い。

特別な価値がある商品づくりが得意なんです！地域に感謝し、土佐市に貢献もしていきたいですね。



坂本・英輔さん

トイレットペーパー

グートゥザワールド!



土佐和紙の思いものせた包み紙

●株式会社モリサ 土佐市

「一枚の紙から生まれる新しい可能性」に挑戦している、土佐市の「モリサ」では、約10年前に始めたSNS発信をきっかけに、海外からの注文が少しずつ増え、3年前から2回フランスの世界的なインテリア見本市「メゾン・エ・オブジェ」にも出展。中でも土佐和紙の「落水紙(※)」を独自に仕上げた和紙は、包装紙はもちろん、海外のホテルやアーティストからも注目される存在に。「土佐で育まれた技術の物語を、大切につないでいきたい」と意気込む。

(※) 漉く途中で水を落として模様を浮かび上げ

日本の包装紙には、贈る人への心配りと気持ちが込められています。その思いに寄り添う土佐和紙でありたいと思います。



森澤・美智さん

主な行き先



中国

・ベトナム
・タイほか

包装材

主な行き先



フランス

・台湾
・カナダほか

世界を魅了

高知の豊かな自然で育つ天然素材は、職人たちの手でさらに磨かれ、世界へ羽ばたいていく。自然の恵みとワザの結晶が、国境を越えて暮らしの中に溶け込み、人々を魅了している。

ゴートゥーザワールド!

主な行き先



アメリカ
・ヨーロッパ

竹細工

土佐の手仕事



須崎市安和でしか育たない希少な虎斑竹。国内を含め他の地域に移植を試みても、きれいな虎模様が出ないという。

世界が惚れ込む
土佐の虎斑竹(とらふだけ)

生育が早く、丈夫で軽い竹は、近年では稀少な天然資源として世界的に注目されている。その竹の魅力を伝え続けているのが、竹材メーカー「竹虎」の四代目・山岸さんだ。「竹の可能性は無限大」を合言葉に、国内外で竹文化について講演を行い、世界約50カ国の竹関係者が集う「世界竹会議(WBC)」にも参加している。「竹虎」が扱う竹の中でも、とりわけ希少なのが、須崎市安和(あわ)でのみ育つ「虎斑竹」。ガスバーナーで炙り、竹からにじみ出る油分で拭き上げることで、虎のようなまだら模様が生かび上がる。見た目の特徴に加え、耐久性にも優れていることからワインクーラーや縁台など、多彩な製品となつて海外でも高い評価を得ている。「言葉が通じなくても心は通じる。竹文化を未来につなぐ力になれば」と、山岸さんは竹の魅力を語ってくれた。

竹のある暮らしは
いかが? 布にも紙
にもなるがで!

須崎市

竹虎(株)山岸竹材店
やまぎし よしひろ

四代目 山岸 義浩さん

明治27年(1894年)創業、「山岸竹材店」の代表。虎斑竹の価値を伝えるため国内外を飛び回り、「竹チューバー」としても活動中。

竹が育たない地域では高級品として重宝される



もともとはお茶を入れる竹細工の箱が、アクセサリや小物入れに使われることも。葉が年間を通じて青々としていることから、バリのカフェテラスでは観葉植物として置かれることもある。

こんなにうにに使われている!



高知の天然素材、

木 工 品

土佐の手仕事

ゴートゥーザワールド!

主な行き先



アメリカ

- ・オーストリア
- ・ニュージーランド
- ・アジア諸国

県産木材の素晴らしさを子どもたちにも知らせたい!

須崎市

株式会社 土佐龍
いけ やすひろ
池 靖紘さん

現取締役である五十嵐さんの甥。作り手も楽しく物作りができる職場になるよう心がけている。



香りで評価される
良質な四万十ひのき

ひのきは、海外の方にとって日本独自の文化を感じさせる香り。木製バスマットや、石けん置きを組み合わせたバスセットが特に人気なのだとか。アジア圏ではキッチン用品も好評。



日本独自の香りがバスタイムを豊かに!

こんなふうに使われている!



「木の料理人」として、一本の木を余すことなく活かし、素材の特徴を最大限に引き出した製品づくりを行っている。



豊かな香りと高い抗菌作用をもつ「四万十ひのき」。夏の日照時間が長い高知県は、全国でも良質な木材の産地として知られている。初代社長の「木を無駄なく使いたい」という思いから、循環型社会が注目される以前より木材活用に取り組んできた「土佐龍」が海外展開を始めたのは、平成7年のこと。商社の社長から「日本らしい風呂製品を作ってほしい」と依頼を受け、ひのきの入浴剤「バスティー」を開発したことがきっかけだった。日本固有種であるひのきは、海外のギフトショーでも「唯無二の香り」と高く評価され、その声をもとに、風呂椅子やバスマットなど、多彩な製品を海外へ輸出。「国や人種を問わず、喜ぶ顔は同じ。みんなが幸せになるものづくりを続けたい」と、今も日本の香りを世界へ届けていこう。

はみだしコラム 漫画文化が輸出されて四国にたくさん外国人来てほしいです。(愛媛県・30代)

土佐打刃物の ワザが光る

江戸時代から受け継がれてきた土佐打刃物。その確かな切れ味は海外でも高く評価され、プロの現場から家庭の台所まで、幅広く愛用されている。

世界が認める切れ味 土佐打刃物の職人技

江戸時代から続く「土佐打刃物」が世界の料理人から高く評価されている。(協)土佐刃物流通センターが海外と取引を始めたのは約20年前。日曜市で偶然土佐打刃物を見かけて魅了されたドイツ人が取引を申し出たのがきっかけだった。「土佐打刃物は、鉄と鋼を組み合わせて作るため、きちんと手入れしないとすぐに錆びます。販売する時は、包丁の研ぎ方も一緒に伝えているんですよ」と田村さん。「自由鍛造(たんぞう)」製法で全ての工程を一人の職人が行うため量産はできないが、そのぶん使い手に寄り添った製品ができる。ゆえに商社を通すような大口取引は難しいものの、個人間でのやり取りだからこそ保存方法など細やかな情報まで丁寧に伝えられるという。注文から納品まで半年以上、時には1年以上かかることもあるが、それでも注文は絶えないそうだ。

ものを売るだけではなく、文化も一緒に伝える



海外では家庭用に使われることが多いという土佐打刃物。写真は、カリフォルニア州にある日本の台所用品を販売するお店「Japanese Knife Imports」の様子。

こんなふうに使われている!



決まった型を使わず、職人が手作業で刃物の形や角度などを自由に変えていく製法「自由鍛造」で作られるのも土佐打刃物の特徴。

ゴートゥーザワールド!

主な行き先



アメリカ

・ヨーロッパ

「よう切れる!」
それこそ最大の
魅力です

「高知県土佐刃物連合協同組合」では「鍛冶屋創生塾」を立ち上げ、地場産業を守り育て、商品開発や人材育成を行っている。

香美市

協同組合 土佐刃物流通センター

たむら ゆうぞう
田村 有三さん

ルーツは
「土佐打刃物」

世界を耕す 巧みな刃 「太陽」の爪

ゴートゥーザワールド!

主な行き先



インド

・インドネシア



耕うん爪



海外事業部の土居さんが開発した耕うん爪。独特のひねりと「折れず曲がらず」の耐久性を持つ海外主力製品のひとつ。



インドのサトウキビ畑で実施した新製品テストでは、栽培品種に合わせて爪の長さや形状を細かく調整していった。

土佐伝統の爪が
異国の田畑を耕す

トラクターで使用するされる「耕うん爪」の製造で国内シェア40%を誇る、高知市に本社を置くトップメーカー「太陽」。主力の耕うん爪は、土佐打刃物の技術と青龍刀(※)の形状をヒントに開発されたもので、耐久性や反転性、草の絡みにくさが強み。日本で歩行型の耕うん機が使われるようになった、昭和25年頃から国内農業を支えてきたロングセラーだ。そんな同社は、平成25年頃から世界最大のトラクター生産国・インドに着目し、現地に自社工場を設立。土壌やトラクターの性能、耕うんスピードなどを現地で確かめながら、インドの農業ニーズに合わせた50種類もの耕うん爪を開発し、現在、インド市場でのシェアは、なんと第2位を誇る。土佐打刃物に由来する圧倒的な耐久性を武器に、広大で作付け回数も多い異国の大地を耕している。

(※)中国で古くから使われた、刃が幅広く湾曲した長い柄の大刀

高知の爪で世界の
田畑を耕うん!海外
農業に希望の種を!



高知市

株式会社太陽
海外事業部開発責任者
土居 照明さん



馬路村の未来の為に これからも挑戦し続ける

馬路村農業協同組合 現組合長
ながの もとた

長野 桃太さん

昭和62年生まれ、高知市出身。高知大学卒業後、平成21年に馬路村農協へ入組。営農販売課にて従事し、令和7年に組合長に就任。若さと活力で馬路村を牽引している。

ぼん酢しょうゆ「ゆずの村」と「ごっくん馬路村」は、シンガポールや東南アジアに輸出され、海外でも評判を得ている。

令和7年3月、38歳という若さで馬路村農協の組合長に就任した長野さん。彼が馬路村に移り住んだのは16年前。「やりがいのある仕事に挑戦し、自分の価値を見出した」。そう考えていた長野さんは、全国的に注目されていた馬路村の取り組みに魅力を感じ、「ここで働きたい」と飛び込んだという。着任後は、当時組合長だった東谷さんと共に、パンフレットデザインや広報活動、リキュール商品の開発など、多彩なプロジェクトに奔走。村民からは息子のように可愛がられ、長野さん自身の馬路村愛も深まっていた。次期組合長への立候補時には「若すぎる」という声も上がったが、東谷さんの「決めたからにはやり抜く」という声も上ったが、東谷さんの「新たな未来を力強く切り開いている」。

今回の関係

現組合長

元組合長

高知に引っ越してきてから土佐の地酒ばかり飲んでいました。日本酒や日本酒を使った化粧品やハンドクリームが世界にもっと広まればいいですね。(高知県・50代)

はみだしコラム



馬路村農業協同組合 元組合長 とうたに もちふみ 東谷 望史さん

昭和27年生まれ、馬路村出身。高校卒業後、高知市で働いた後、昭和48年に馬路村農協へ入組。平成18年に組合長となり、令和4年に退任。現在は馬路村の新たな可能性を模索しながら農家として活動している。



東谷さんが組合長となった年に「ゆずの森加工場」が完成。退任後は山の中で稼いでいくにはどうすれば良いかを考え、有機ゆず栽培、自伐型林業、木工品加工などに挑戦を続けている。

作る人、伝える人、つなぐ人、遺す人…

ここ高知で、そんな仕事や活動をしている人と

その人がリスベクトする人にスポーツを当て

2人の関係性、双方の思い、そしてこれからのことなど

胸に秘めたる熱い思いをひもといていく

挑戦の姿勢は見せてきた

あとは自分を信じて突き進め

ゆずを使った数々のヒット商品を生み出し、馬路村の名を全国区に押し上げた東谷さん。入組当時は年商5000万円にも満たなかった農協の売上は、組合長に就任した平成18年には30億円を超え、その手腕は瞬く間に広く知られるようになった。

長野さんと出会ったのは平成21年。採用面接で「馬路村の

一員になりたいです」と熱意を語る長野さんの姿に、東谷さんは「この人は村の未来を担う存在になる」と直感したという。採用後は、ゆず製品の可能性を広げる数々のプロジェクトを通して思いや姿勢を伝え「無理だと言われても挑戦し続けること」という信念を継承していった。令和4年に東谷さんが農協を退組し、令和7年に北

岡前組合長の退組が決まった際、長野さんから「組合長に立候補したい」と相談を持ちかけられた。突然の申し出に驚きつつも、挑戦への強い意欲を感じ取った東谷さんは「やってみや」と背中を押したという。「桃太は現状を見る力と挑戦する力のバランスが取れちゆう。自分を信じて進んでほしい」と、未来を託している。

「東谷さんに頼るのは最終手段」と奮闘する長野さん。「桃太には自分で道を切り開く力があ



はみだしコラム

高知県の柚子が輸出されてるって聞きました。

料理にゆずが入ると違うからどんどん人気出る予感!!(高知県・20代)

ワカモノがゆく! vol.6

土佐文化体験記

高知県内各地で脈々と継承されてきた地域の文化を、ワカモノたちが体験!
今回は、土佐市の「戸田商行」で、地元の高校生が木毛作りに触れた。

「木毛」の正式な読みは「もくもう」。昭和40年代には全国に約120社の木毛業者があり、東日本と西日本に分かれて活動していた。当時、西日本の業者が差別化を図るため、「木毛」と書いてあえて「もくめん」と読ませて販売したことが、現在の「もくめん」という呼び名の始まりとされている。

高知の良さや文化をもっと知りたいと思いました!



体験者(代表)

ふじわら しおり

藤原 汐里さん

高知市出身。高岡高等学校1年生。レスリング部に所属し、地域のイベント支援等も積極的に行っている。木毛の存在は知っていたが、実物に触れるのは初めて。

贈り物に温もりを添える
高知の木毛(もくめん)

土佐市の「戸田商行」では、年輪幅が広く柔らかな県産木材の特性を生かし、県内各地から集めた多様な木を原料に木毛を製造し、国内外へ届けている。元々、山を歩き木を売買する「山仕(やまし)」の仕事に携わっていた創業者が、木毛の製造に進出したのは昭和36年のこと。早くから木毛という素材の将来性に着目し、山の木をただ売るのではなく、削って緩衝材へと生まれ変わらせる付加価値の高いものづくりに挑んだのだ。創業当時から使い続けられている6台の木毛製造機は今も現役で、職人が手間を惜しまず丁寧に仕上げている。戸田さんが「木毛には、受け取る人进行いやる、日本人らしい美しさがある」と語るように、贈り物に木の温もりを添える緩衝材として親しまれている。



土佐市

木毛(もくめん)

「もくめん」は、木材を細く削り乾燥させて作られる、天然素材の緩衝材。デリケートな青果や贈答品を守るために用いられてきた。起源は、明治天皇に献上する果物を包むため岡山の大工が考案したとされ、昭和40年代には全国で生産が広がった。その後、安価な代替品の普及などで製造業者は減っていき、「戸田商行」は現在、「日本最後の木毛工場」といわれている。

問い合わせ先／088-855-0426
(有限会社戸田商行)



色も匂いも質感も
木によって
全然違う!



2



3

自然と人に配慮した
製品づくりに感動!



4

1. 一番多く生産しているのは、比較的匂いが少なく柔らかい松の木毛。 2. 代表取締役の戸田実知子(とだみちこ)さん。 3. 元々山仕をしていたという職人もおり、木材の扱いはお手のもの。木材の仕入れは年に一度、水を吸い上げない冬場にまとめて行う。 4. 「日本独自の香り」と評価される、文旦や檜の精油。高知の山の香りを世界へ届ける。

資源を余すことなく生かす
循環型のものづくり

木毛の「くるくる」とした柔らかなカールは、木の目に対して斜めに刃を入れるという繊細な職人技から生まれる。戸田商行では、乾燥作業に端材を燃料として使うなど、素材を無駄にしない工夫も徹底している。また、県産木材は香気成分が多く含まれていることから、山に廃棄されている枝葉を集め、杉や檜(ひのき)のオイルを抽出している。見学した生徒からは「木材が燃料になったり製品になったりしてすごい」との声もあった。

森林率84%の高知でも、木に触れる機会は意外と少ない。今回見学した高岡高等学校の生徒たちも、松・杉・檜・楠(くすのき)の木毛に触れ、「木毛は知っていたけど、木の種類でこんなに違うとは思わなかった」と驚いていた。

戸田さんは「自然の良さを伝え、高知の木材文化を未来につなげたい」と語る。木毛は、その思いに触れられる入口となっている。

高知の薬味の底力

キラリ、そして「ピリリ」と放つ存在感。高知の食文化に欠かせない、辛くて香り高い「薬味」の数々

歴史、産地、そしてその薬味を使った料理のことをもっと知りたくありませんか？



では山間部の気候を生かしてゆずの栽培が盛んに行われてきた。田舎寿司をはじめ、ゆず果汁

高知の食文化を広げた 香る柑橘「ゆず」のチカラ

「皮や果汁で料理に爽やかな香りを加える」という基本的な使い方を持つ「ゆず」は、高知の食文化を象徴する食材。高知県で本格的にゆずの産地化が進んだのは昭和40年頃だが、それ以前から高知県



を薬味や隠し味に使った高知の郷土料理は数多く、また昭和後期には、ゆず果汁を使った加工品が全国的に大ヒット。今も昔も高知ではお馴染みの「ゆずポン酢」などが全国で流通する商品となるなど、ゆずは高知の食文化を全国に広げるきっかけ作りにも大きく貢献している。

「ゆのす」が海外で高評価！ 海を渡る高知のゆず

実は近年、「高知のゆず」が和食の枠を超えて、世界各国の料理やスイーツともマッチすると

気候を生かして育てられる高知のゆず。表面の「でこぼこ」は天然由来。北川村内には樹齢を重ねた「実生ゆず」も数多く生育し、ゆず栽培に適した環境が整う。



話し手

北川村ゆず王国株式会社 アグリ事業部

さわだ 澤田 寿夫さん

ゆず農家歴50年の大ベテラン。「良いゆず作り」をモットーに、自社園地(約2万㎡)の管理・収穫を指揮。

はみだしコラム 高知の柚子がフランスに輸出されているのは尊敬します。(高知県・50代)

(※)ゆず果汁100%の絞果汁。



牛革と同じように経年変化も楽しめる
環境にやさしい素材



※染色前の魚の皮



高知で始めた新しい感性と文化の兆しを追いかける！

はと は さ
じす は っ
めで ま と
る！ る

Vol.4

ものづくりへの熱い想いが、今までにない物を生み出す



興洋フリーズ株式会社
フィッシュレザー事業部 部長
たかはし ひろみ
高橋 大海さん

平成10年生まれ、南国市出身。
令和3年にブランド「Ocean Leather」を立ち上げる。関西外国語大学在学中に、アメリカへ1年間留学していた経験を生かし、国内外の様々な展示会やプロジェクトにも参加。週7日釣りに行くほどの釣り好き。

捨てられるものに
価値を与えるものづくり

魚種ごとに異なる美しい模様が魅力のフィッシュレザー。「Ocean Leather」代表・高橋大海さんは、家業の水産加工を手伝う中で、原料の約7割が廃棄されている現状に課題を感じ、魚の皮を革製品として生かす道を模索した。大学時代に、魚の剥製づくりが陸上動物の革と同じ技法で行われていることを知ったことがきっかけで、皮の鞣（なめ）しを独学で習得。およそ1年の試行錯誤を経て、フィッシュレザーの商品化にこぎ着けたという。「柔らかな質感に仕上げることも、匂いを抑えることも大変でした」と振り返る高橋さん。「誰もやっていないものづくりには苦労もありますが、それこそが面白さ。世界の人に喜ばれる製品を、これからも生み出していきたい」と意欲を見せる。



漁業関係者や釣り好きに贈りたい
フィッシュレザーの革小物



商品は店頭（高知県高知市弘化台19-9 興洋フリーズ株式会社の西側の建物）またはオンラインショップ（<https://oceanleatherofficial.com/>）で購入可能。

はみだしコラム

若者も楽しめるコラムがたくさん！次回も待ち遠しいです♪（高知県・20代）

つないでつむいで

県史編さん室

高知県史(自治体史)とは？

高知県について伝え残されたさまざまな資料を調査し、県の歴史を詳細に記したものを、郷土の歴史を知る、大切な手がかりだ。

土佐の自然と民話

過去を未来に引き継ぐための調査を行っています！



高知県は各地にさまざまな民話が伝承されている。それらの中には、海、川、山など、豊かな自然環境を背景としたものも多い。今回は淵や池を舞台とした大蛇にまつわる伝説について紹介する。令和7年5月、梶原町から県境を越えた愛媛県西予市野村町大野ヶ原で、県史民俗編に向けた調査を実施した。四国カルストに位置するこの地にある「小松ヶ池」は、高知県の民話のなかに度々登場する。

その話とは、昔、枌を不正に使用した商人の娘が、親の因果で蛇性の身となり、住処とする淵を求めて旅をするという内容である。県下の広い範囲に分布するよく知られた伝説で、四国の伝説を分類した『日本伝説大系』12巻では「秤屋の娘」というタイトルで紹介されている。多くの場合、娘は訪ねた先の淵や池に棲み着いて、そのヌシになるという結末で終わるが、県西部の伝承では、県境を越えた大野ヶ原の「小松ヶ池」のヌシになったと語られることが多い。



梶原町四万川の竜王宮(海津見神社)



蛇になった娘が入ったという空池。地元の方の案内で山中を進みたどり着くことができた。



愛媛県西予市大野ヶ原の小松ヶ池

高知の清流と 大蛇の伝承

この伝説では、道すがら娘が立ち寄った淵や、一夜の宿を乞う農家での奇談が、具体的な地名を伴ってまことしやかに語られる場合がある。安田町の伝承では、城下からやってきたのは姉妹だった。妹は安田川をさかのぼって瀬切の釜ヶ淵のヌシになり、姉は讃岐まで行つて満濃池のヌシになったという。

梶原町の伝承では、旅の途中、農家に泊めてもらった娘は、楮や三桮を蒸すむし桶の中で寝たと語られる。娘はその後、四万川の龍王さま（海津見神社）の近くの池（空池）に入り、うわさを聞いて、城下からやってきた母親と再会する。しかし、最後は小松ヶ池に移りヌシになったと伝えている。

今回は伝説「秤屋の娘」を紹介したが、ほかに、高知の山間を流れる清流を舞台に大蛇に関する物語が数多く語り伝えられている。私たちの生まれた地域や住んでいる土地にはどのような物語が伝わっているのだろうか。今一度見つめ直してみると、思わぬ発見があるかもしれない。

第15回 仁淀川町池川・成川遺跡

史料が語る ものの語

考古学の世界では、遺跡から出土した様々な遺物や遺構から、過去の人々の生活や彼らの持っていた技術などを研究している。今回、高知県で見つかるのはかなり珍しい希少な遺物について紹介する。



成川遺跡・石棒（表）



成川遺跡・石棒（裏）

縄文時代の「特級」石器

石棒は、縄文時代の中頃から後半にかけて、東日本で広く見られる棒状の石器だ。西日本では東日本に比べて数が少なく、特に高知県では希少な石器と言えるが、この石器が仁淀川町池川の2つの遺跡から出土している。

特に成川遺跡から出土したものは欠けているところが無く、長さは約35センチで、すりこぎのような形をしている。

この石器は、お祭りや儀式の際に用いられたと考えられており、山や川からの豊富な恵みや子孫繁栄、そして病気や災いに見舞われないことを願ったのかもしれない。つまり、生活の場での実用的な道具ではなく、精神的なシンボルとしての役割が大きかったのだろう。この石器は、当時の人々の信仰や世界観を知る上で重要な手がかりと言える。

高知県の
歴史に触れる

県史特集

紙づくりに宿る 土佐のものづくり

今回のテーマは、高知の輸出と紙づくりの歴史。
江戸時代から重要な「輸出品」だった土佐和紙は
明治に活躍した吉井源太によりさらに世界へ。
そこにあったのは、土佐のものづくりの精神だった。



大正時代から昭和時代への移行期(1920年代後半)に撮影された、当時の紙づくりの様子。いの町にあった「中田製紙工場」では、大勢の職人たちが紙漉きを行い、屋外には紙干場があった。

変革の時代をこえて
日本一の生産額を誇った
いの町の土佐和紙づくり

高知の輸出の歴史を語る上で、いの町の紙づくりは欠かせない。江戸時代から紙は土佐藩にとって重要な「輸出品」で、幕末には「大坂で流通する紙の約4割が土佐和紙だった」とも伝わるほど。明治期に入り海外との交易が本格化すると、日本の製紙業は大きな転換点に。その中で、いの町の紙づくりは次々と技術革新を遂げ、高知県は和紙生産額で全国一位を誇るまでになる。海外で「トサ・ステンシル・ペーパー」と呼ばれた「土佐典具帖紙」とさてんぐじょうし」をはじめ、さまざまな紙がいの町から世界へ輸出されていた。そんな土佐和紙の歴史に触れるため、「いの町紙の博物館」で文化財の保存修復に携わる一宮さんを訪ねた。

「いの町で製紙会社に勤めていた私の大叔父は、幼い頃、あの吉井源太(よしいげんた)に会っているそうなんです!」と一宮さん。この吉井源太こそ、江戸時代の伊野村に生まれ、和紙職人として、そして開発者として、土佐和紙が世界へ踏み出していく時代に大きな原動力となった人物だ。

土佐和紙の歴史を世界へつないだ吉井源太の精神とは

「江戸で紙の需要が高まる」と見抜いた吉井源太は、万延元年（1860年）に紙漉きの効率を飛躍させる大型の「簀桁（すけた）」を開発したが、そこにあつたのは確かな先見の明。同じく源太が開発した「土佐典具帖紙」は、かつてなかったほどの薄さと強さからタイプライターの用紙として欧米で一世を

風靡し、昭和3年には年間約470トンもの輸出量を記録した。また、雁皮（がんぴ）製の薄様（うすよう）大判紙（※）が書類を複写する紙として最適と高く評価されると、これをコッピ紙として輸出し始めている。つまり源太は、常に時代の変化とニーズに合わせたものづくりを行ってきたのだ。その精神はやがて和紙の枠を超え、特殊紙や機能紙といった新しい産業分野へと発展していく。



先見の明を持って紙づくりの最先端を拓いていく

そんな土佐和紙が、現代であらためて世界的に活用されているのは、美術品や文書といった文化財の保存修復の分野。高知県立紙産業技術センターに所属していた、紙の繊維分析の専門家である大川昭典氏をはじめ、製紙業者や和紙職人の尽力により、今ではいの町に世界中から保存修復家たちが訪れている。



持ち手を和紙で修復された吉井源太の鞆。柔軟性や化学的な安定性、素材の安全性など、ポテンシャルが高い和紙だからこそ可能な修復作業だ。

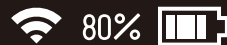
神奈川県横浜市生まれ。実家は紙の輸出問屋。自身も和紙の輸出業に携わり、紙づくりを学ぶため高知へ移住。東京で文化財の保存修復を学んだ後、高知に暮らしながら保存修復士として活動している。

いちのみや か よ こ
一宮 佳世子さん



古い新聞記事の保存作業の様子（下画像）。文書の破損を防ぎながら研究等で取り扱えるように、記事の両面を典具帖紙で挟んでいる。丈夫ながら、薄くて柔軟性がある典具帖紙の特性が重宝されている。

（※）和紙の原料のひとつである雁皮を使った、薄くて大きな紙



— 孕のジャン —

AM3:00



26

贈り物

とさぶしからの

①店…当選ハガキを持って提供店へ

②…郵便または宅配便にて自宅へお届け

P16 馬路村農業協同組合

馬路村ぼん酢しょうゆ
2種セット 5名様

馬路村の看板商品であるぼん酢しょうゆ「ゆずの村」と、その2倍のゆず果汁が入った「千人の村」のセット。味を比べてみよう!



応募締切

令和8年3月20日

クイズとアンケートに答えて読者プレゼントに応募しよう!

クイズ 仁淀川町にある日本屈指の埋蔵量を誇る石灰石鉱山の名前は?

※読者プレゼントの応募は「とさぶしwebサイト」もしくは、官製ハガキから応募できます。官製ハガキで応募される場合は①年代②性別③お住まいの都道府県④とさぶしを手に入れた場所⑤とさぶしを知ったきっかけ⑥良かったコーナー(複数回答可)⑦満足度(10段階評価をお願いします)⑧とさぶしを読んで実際に行ってみたい、食べてみたいなど意識変化はありましたか?(はい/いいえ)⑨「はい」の方。その理由を教えてください⑩とさぶしを読んで、実際に冊子掲載店や場所に行ってみたり、商品を購入してみたりしましたか?(はい/いいえ)⑪クイズの答え⑫希望する商品⑬氏名⑭発送先のご住所⑮電話番号⑯メールアドレス(※デジタルギフトご希望の場合)⑰はみだしコラム(※)をご記入の上、下記の宛先まで締切日(令和8年3月20日)必着でお送りください。〒781-0081 高知市北川添10-15 株式会社はつこうち

●読者プレゼントの応募は、1人1回とさせていただきます。●プレゼントの発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。●いただきました個人情報はプレゼントの発送にのみ使用します。

※とさぶし第48号より、各ページ下にコラムの掲載を始めました(今回応募していただいたコラムは第54号に掲載予定です)。とさぶしに関する「感想」や、次回の特集テーマである「高知の宿」にまつわるエピソードなど(30文字程度)をお寄せください。掲載は抽選となります。(例)毎号楽しく読んでいます。高知の宿についてもっと知りたい!(高知県・30代)



P04

兼松エンジニアリング株式会社
オリジナルチョロQ

4名様

兼松エンジニアリング50周年を記念して作られた、高圧洗浄車「MOBILE JET」のチョロQ。

(協)土佐刃物流通センター P14 両刃黒打包丁 土佐型包丁 1名様



刃が真っ直ぐ長い形が特徴の「土佐型」と呼ばれる包丁。細身で軽量に作られており、野菜、肉、魚と万能に使うことができる。

P21 興洋フリーズ株式会社

フィレ型キーホルダー 5名様

魚の三枚おろしがモチーフのキーホルダー。魚種によって違う模様が楽しめる。※引き換え券の発送になりますので、受け取り期間中に来店いただく必要があります。



※QRコードが読み込めない場合はLINEアプリから友だち登録していただき、ご応募ください。

とさぶし

QUOカードPay1000円分

5名様

※これらの商品をご希望の方は、応募時にスマホで受信できるメールアドレスを記載してください。



A BRAND NEW CHAPTER BEGINS!
TOSABUSHI

とさぶし

<https://tosabushi.com>

発行
高知県文化生活部文化振興課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日: 令和7年12月31日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 はっとりこうち

バックナンバーの入手方法・お問い合わせ

高知県文化生活部文化振興課(上記)まで
ご連絡ください。

Facebook、LINE、Instagramでも情報配信中!



Facebook



LINE



Instagram

Web
見てちや!

特集

P02

高知発、世界行き!

P04

世界で躍動する!高知のキカイ

P07

すごいキカイを見に行かん?

P08

高知の石灰クオリティ

P10

そのモノじつは…グローバル!

P12

高知の天然素材、世界を魅了

P14

土佐打刃物のワザが光る

連載

P16

憧れのボタン【現組合長×元組合長】

P18

土佐文化体験記【木毛(もくめん)】

P20

高知の薬味の底力【ゆず】

P21

さっとはじまる とさではじめる!【Ocean Leather】

P22

つないでつむいで 県史編さん室

P24

県史特集【紙づくりに宿る土佐のものづくり】

P26

バケベディア【孕のジャン】

P27

とさぶしからの贈り物